

2021年 4月 2日

2020年度採択 研究成果国際発信プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名：総合心理学部・教授 氏名：北岡明佳
研究課題	錯視・錯覚研究に特化した国際学術雑誌「Journal of Illusion」創刊へ向けた諸活動

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

採択を受けた国際的研究成果発信プログラムの目的・意義について、概要を記入してください。

19世紀後半に成立した心理学(科学的なところの研究)は、それより数十年先行していた錯視研究を母体の一つとしている。それは、錯視は顕著な閾上知覚であり、知覚はこころ(あるいは意識)の内容だからである。当時も今も、錯視研究の基本は現象の観察にあるが、近年の視覚科学のロジックは神経科学への還元に傾倒し、現象自体の丁寧で冷徹な観察よりは、現象のメカニズムの推定に重きが置かれる傾向にある。一方、21世紀に入ったところからICT技術・環境の発展が錯視研究の再加速を促し、いろいろな新しい錯視が発見され、現在はそれら同士あるいは旧来の錯視群との関係が次々に明らかになっていく状況にあるのだが、視覚科学の学術誌は現象よりもメカニズムを論じることを好むため、新しい錯視を発見しても、報告する妥当な場がないという問題があった。そこで、本プログラムにおいては、錯視の現象的研究を発表する場である新しい学術誌である“Journal of Illusion”を創設することを目的とした。また、錯視はデモ刺激(画像・動画)が重要であり、インターネットとの親和性が高いため、紙媒体を前提としないオンラインジャーナルとし、また本来科学は誰でもアクセスできるべきという理想に基き、商業的出版社によらない(最低限の論文掲載料を維持費とする)オープンアクセス誌を志した。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

本プログラムのサポートのもと、河邊隆寛氏(NTT コミュニケーション基礎科学研究所 上席特別研究員)および山田祐樹氏(九州大学 准教授)と共同で、2020年10月1日にオンラインジャーナルとして“Journal of Illusion”を創設した。プラットフォームは、いくつかのオンラインジャーナルのサポートを行っているスウェーデンの Open Academia 社が運営に当たっている。

Journal of Illusion の URL は、<https://journalofillusion.net/index.php/joi/index> である。編集委員会は、国際的に著名な錯視研究者11名によって構成した(<https://journalofillusion.net/index.php/joi/about/editorialTeam>)。

現在のところ、Journal of Illusion に公刊された論文は、以下の1本である。Kitaoka, A. & Anstis, S. (2021). A review of the footsteps illusions. Journal of Illusion, 2(1), 1-22.

現時点(2021年4月1日)では、数本の論文を査読中である。今後は、錯視・錯覚関係の研究論文をより多く投稿してもらえよう、引き続き Journal of Illusion の PR を行い、知名度向上に努力する。

本プログラムのサポートにより Journal of Illusion はスタートできた。その謝辞をジャーナルの以下の URL に掲載した(<https://journalofillusion.net/index.php/joi/acknowledgements>)。

※ I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要および II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要は、ホームページ等にて公開いたします。1ページに収めてください。

Ⅲ. 国際的研究成果発信の成果の詳細（非公開部分）

国際的研究成果発信プログラムにおいて開催した会議やシンポジウム、投稿した論文や学会発表について記載をお願いします。

（イベントの開催や研究発表・論文発表、いずれにも該当しない場合、その他に2020年に実施した具体的な研究活動を記載ください）

記載にあたっては会議/シンポジウム/セミナーの名称（学会・会議名、シンポジウム・セミナー名等）と内容に加えて ①開催日程・開催地、②交流機関もしくは研究者（国籍）、③対応した研究メンバーを記入してください。（多い場合はA,B,他〇名という標記でも結構です）若手研究者・大学院生関わった実績があればその旨も記載をお願いします。

（記入スペースが足りないときは、スペースを広げて記入してください。）

○学会、シンポジウム、イベントの開催

・「 」

①

②

③

・「 」

①

②

③

○研究発表・論文・著書

・ Kitaoka, A., Kawabe, T., & Yamada, Y. (2020). Introducing the Journal of Illusion. *Journal of Illusion*, 1(1), 1.

Journal of Illusion 誌の創設とその意義を記述した論説である。

<https://journalofillusion.net/index.php/joi/article/view/5591>

・ Kitaoka, A. & Anstis, S. (2021). A review of the footsteps illusions. *Journal of Illusion*, 2(1), 1-22.

Journal of Illusion 誌の最初のフルペーパー。オンラインジャーナルでオープンアクセスの特性を生かし、38個の動画デモを含むフットステップ錯視および関連する錯視を集大成したレビュー論文。レビュー論文と言っても、新しい錯視を満載している。

<https://journalofillusion.net/index.php/joi/article/view/5612>

<http://www.psy.ritsumeai.ac.jp/~akitaoka/footstepillusion-movies-figures.html> (Movies and figures)

○その他